

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1960
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.53, No.3 (1960. 3)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19600301--001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19600301--001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 三田學會雜誌

慶應義塾經濟学会

三月号

經濟学関係文献目録

書評及び紹介

学界展望

最近における漁家層の動向……………高山隆三(六)

資料

国有化産業における投資政策……………丸尾直美(三)

近代自然法の展開に関する一考察(一)……………野地洋行(三)

經濟心理学における場の理論……………中鉢正美(一)

論説

第五十三卷

第三号

昭和三十三年三月十一日  
昭和三十三年三月十四日  
第三種郵便物認可  
毎月第一日発行  
九〇三号

昭和三十三年二月二十四日  
昭和三十三年三月一日  
第三種郵便物認可  
毎月第一日発行  
九〇三号

三田学会雑誌

昭和三十三年二月号

定価 金九〇円 (送料別)

# MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 53, No. 2

February, 1960

## CONTENTS

- Transition to Communism from Socialism  
in Soviet Union..... *K. Kiga* (1)
- The Difference in the Relation between Wages  
and Working-Hours by Age..... *K. Obi*  
*Y. Sano* (18)
- Die "Konstante" und die Theorie von Grenznutzen  
..... *E. Mochimaru* (43)
- Documents and Materials of the History of German  
Working Class Movement (2/3)  
Die Einwirkungen der ersten russischen Revolution  
von 1905~1907 auf Deutschland, herausgegeben  
von Prof. Dr. Leo Stern, 1954..... *K. Iida* (59)
- Reviews and Notes

Published for  
**KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI**  
(The Keio Economic Society)  
Editorial communications to be sent to  
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,  
Keio-Gijuku University,  
Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.  
Price 90 yen

最近における自由の研究をめぐって……………白 井 厚(七)

書 評 及 び 紹 介

ヘンリー・ペリング 共著『労働党と政治』……………飯 田 鼎(八)

経済心理学における場の理論

中 鉢 正 美

一、二つの経済心理学

かつて藤林敬三教授は、経済心理学のうちに三種の動向を区別してこれを理論的経済心理学、実践的経済心理学、および理論的・実践的経済心理学と名づけられた。これについてはすでに他の機会においても論及したところであるが、この第一の動向のうちの一つとしては、経済現象を人間の経済行為へ、さらにそれを経済人の意識へと遡及して一定の心理学的知識にまで到達し、かかる因果関係からいわば自然科学的に経済現象を説明しようとするものをあげる事ができる。たとえば個人的欲望充足における限界効用逓減の法則から市場均衡の理論を演繹するオーストリア学派の経済学は、このような意味における一種の心理学的経済学といってよからう。これに対してむしろ人間性に関する心理的あるいは哲学的解釈から、経済現象を目的論的に理解しようとするものが認められる。たとえばドイツ歴史学派の経済学において、シュモラーが統一的国民

経済心理学における場の理論

精神の存在を前提し、また全社会組織の心理学的出発点として、個人意識における自己保存の衝動や性的衝動等をあげるとき、またワグナーが経済学の心理学的基礎として利己的動機に非利己的動機を対立させ、とくに後者の重要性を説いているときはこれである。

これに対して第二の実践的経済心理学は、一般には産業心理学あるいは精神技術学ともよばれているが、そのうちにもまた四種類ほどの傾向を認める事ができる。これらはいずれも経営における人間の要素に関する能率増進を実践的目的とするものであるが、その第一にはかかる経営における職業活動がおののいかなる心理的特性を要求するものであるかを分析し、また各人の性能の差異を精神検査法により測定して、あるいは適材適所の人的配置をおこない、または既に配置された人間の指導訓練をおこなう、職業心理学をあげる事ができる。第二にこれら職場に配置されたひとびとの能率を阻害するような作業条件を除去し、進んで能率を増進するような